

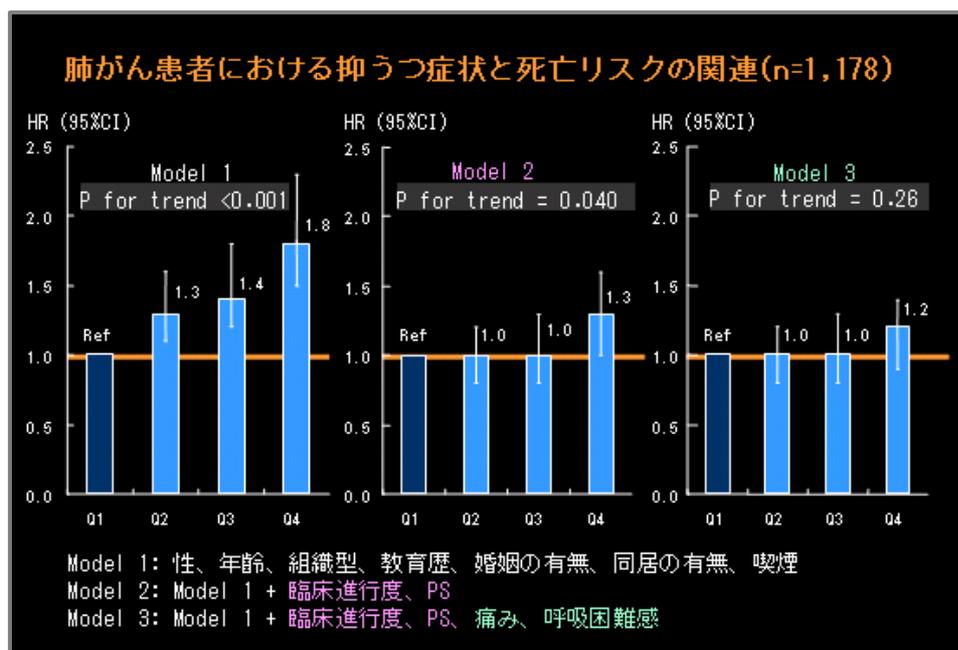
肺がん患者における否定的な心理状態と生命予後の関連

Negative psychological aspects and survival in lung cancer patients.

2007年 Psycho-Oncology 発表

肺がん患者における否定的な心理状態と死亡リスクの関連は、臨床的重症度の交絡によるものである

がん患者が直面する心理的問題として抑うつ、不安があります。抑うつ、不安などの否定的な心理的状态を伴うがん患者は、QOLを著しく損なうだけでなく、生命予後を悪化させる可能性が指摘されています。これまで、うつ病者・抑うつ症状の高いがん患者で生命予後が悪化する可能性が報告されてきましたが、肺がん患者を対象とした研究は少なく、また日本人のがん患者に関する報告はこれまでなく、日本人を対象とした研究を行うことが必要でした。



そこで本研究では、国立がんセンター東病院肺がんデータベースを用い、肺がん診断を受けた者について、うつ病・抑うつ症状と死亡リスクの関連を明らかにすることを目的としました。すると、(1) 性、年齢、組織型、社会経済的要因、喫煙で補正した時、肺がん患者の抑うつ症状は、死亡リスクとの間で有意な正の関連が認められました (Model 1)。(2) 上記の補正項目に臨床的重症度(臨床進行度、PS)を加えた時、抑うつ症状は死亡リスクとの関連は依然として認められました (Model 2)。(3) しかし、上記の補正項目に臨床的重症度(臨床進行度、PS、痛み、呼吸困難感)を加えた時、抑うつ症状は死亡リスクとの関連は消失しました (Model 3)。(4) 調査開始時の臨床的重症度は、抑うつ症状と強い正の関連を示しました。以上より、肺がん患者における否定的な心理状態と死亡リスクの関連は、臨床的重症度の交絡によるものであることが示されました。

研究データについて

国立がんセンター東病院肺がんデータベース：1999年から2004年まで国立がんセンター東病院呼吸器科にて肺がん診断を受け、本プロジェクトの調査研究に耐えられる者、プロジェクトの説明を受けた者を対象としています。調査は、肺がん患者の生活習慣、医療記録のみならず、24時間蓄尿、抑うつ(HADS: Hospital Anxiety and Depression Scale)、婚姻状況(配偶者の有無)、社会的サポート(満足度)等に関する評価を行っています。追跡調査：本プロジェクト参加者のうち、2003年以降にプロジェクトに参加した者、重複がん、多重がん、心理指標(抑うつ症状等)欠損があった者を除外した1178人を分析の対象としました。ベースライン調査時から2004年12月末までの追跡調査により、686例の死亡例を確認しました。

抑うつ症状の評価・統計解析について

抑うつ症状は Hospital Anxiety and Depression Scale (HADS) の 1 つの下位尺度により評価した。「くよくよした考えが心に浮かびますか？」など 7 項目からなる。『ほとんどいつもある』～『ほんの時々ある』の 4 つの回答項目から選択する。得点の範囲は 0-21 点です。

抑うつ症状以外に肺がん患者の死亡リスクに関わる可能性のある他の条件については、その影響をできるだけ取り除きました。具体的には、がん診断時の年齢、性の他、喫煙、がん診断方法、進行度、治療前の呼吸機能について、グループ間の偏りを統計学的方法で調整しました。

本研究では、以下のように Model を 3 つ作成しました。

Model 1 : 性、年齢、組織型、教育歴、婚姻の有無、同居の有無、喫煙

Model 2 : Model 1 + 臨床進行度、PS

Model 3 : Model 1 + 臨床進行度、PS、痛み、呼吸困難感

研究の特徴と限界について

これまで前向きコホート研究で肺がん患者の抑うつ症状と死亡リスクを検討した報告は少なく、また結果は一致していませんでした。また、我国における報告は 1 件と多くありませんでした。結果として、肺がん患者では、抑うつ症状が臨床的重症度と独立して死亡リスクを高めるという仮説は否定されました。

本研究の長所としては、(1) 1178 人の肺がん患者を対象とし、追跡調査により 686 例の死亡例による極めて大規模な研究であった点、(2) 肺がん患者の多くの医学的所見及び生活習慣を考慮に入れて検討を行った点が挙げられます。

本研究の限界としては、(1) 死亡リスクのみを検討したため、肺がん死亡、その他の死因での検討が出来なかった点、(2) 1 施設での検討であったため、その他の集団でも同様の結果が得られるかは不明である点、(3) 抑うつ症状の評価は 1 回のみであり、その後の抑うつ症状の変化は考慮していない。今後、このような限界点を考慮することにより、肺がん患者の抑うつ症状と死亡リスクの関連が明らかになると考えられます。
